

図書館員が自学できる 自己研修プログラムを 作成したい。



文学部図書館情報学部准教授

伊藤真理

【学歴】

1984年3月 エリザベト音楽大学音楽学部音楽学科音楽学コース卒業
1988年5月 ニューヨーク州立大学バッファロー校大学院図書館学修士課程修了
1989年3月 ニューヨーク州立大学バッファロー校大学院音楽研究科音楽修士課程修了
2001年3月 愛知淑徳大学文学研究科図書館情報学博士後期課程単位取得満期退学
2009年9月 博士（図書館情報学）取得（愛知淑徳大学）

【職歴】

1986年9月 ニューヨーク州立大学バッファロー校音楽図書館勤務(非常勤) [1989年3月まで]
1989年4月 エリザベト音楽大学附属図書館勤務 [1991年4月まで]
1991年5月 国立音楽大学附属図書館勤務 [1997年3月まで]
2002年4月 愛知淑徳大学文学部図書館情報学専任講師 [2005年3月まで]
2005年4月 愛知淑徳大学文学部図書館情報学科准(助)教授 [現在に至る]

伊藤先生は日本の音楽大学で音楽史を学んだのち、音楽図書館情報学という学問領域に関心を持ちます。しかし国内では学べる大学がなかったため、この分野では最先端のアメリカへ留学。二つの大学院に在籍して修士号を取得し、帰国します。現在でも日本で音楽図書館情報学を専門にする研究者はごくわずかです。「手探りで進めています」とのこと。昨年、アメリカでの調査をもとにした博士論文「楽譜のオンライン目録検索における検索行動に関する研究」が完成。今後はこの論文をベースに、図書館員が音楽のさまざまなジャンルの基本的な知識を自学できる自己研修プログラムを作成したいそうです。現在の趣味はハイボールガン。楽譜を探す際には、利用者の視点で研究を見ることがあるそうです。「好きな音楽を生かして、社会に役立てるような研究ができるのは楽しいですね」と話していただきました。



【伊藤先生の主要著作・論文リスト】○共著 □論文

- 「サブジェクトゲートウェイネットワーク上の知識集積」筑波大学知的コミュニティ基盤研究センター・モノグラフシリーズ3 2005年
- 「メタデータ・データベースの構築」「メタデータ活用サービス」 勁草書房「変わりゆく大学図書館」 2005年
- 「利用者による楽譜検索での検索戦術」「音楽分野のオンライン検索研究」 日本図書館情報学会誌 2009年
- 「楽譜のオンライン目録検索における検索行動に関する研究」 博士論文 愛知淑徳大学文学研究科 2009年

私

の専門は音楽図書館情報学です。これまでは、楽譜や録音・映像資料などの、いわゆる非図書資料の効率的な検索のあり方について研究してきました。昨年7月に受理された博士論文では、オンライン検索での楽譜の効率的な検索をテーマとして執筆しました。これまで楽譜検索については、利用者の検索行動に基づいた実証的なデータによる分析が行われていませんでした。本研究は、その点で音楽情報のある方および情報検索研究の一端に寄与できたのではないかと思います。

この研究で明らかとなったことの一つに、楽譜の資料としての特性が検索に大きく影響しているという点があります。楽譜の場合

は、同じ曲であっても、練習用や楽器編成の違いなど、利用目的によって、様々な大きさや版の楽譜が刊行されます。こうした情報を正確に利用者に提供し、的確な検索ができるようにしなければなりません。また、利用者がどのような曲がほしいのかというニーズを把握し、適切な検索を保証する必要があります。そのためにも、図書館員が図書館情報学と音楽分野の専門知識を持つことが求められます。

しかし、特に日本の場合、こうした専門知識を有する図書館員（サブジェクトライブラリアン）を組織的に育成できる環境が整っていません。公共図書館でもCDやビデオの貸し出しなどが盛んに行われ、一般にもますます音楽に対するニーズが高まっています。そこで、今取り組んでいるのは、音楽分野のサブジェクトライブラリアン育成・養成のための体制作りです。Eラーニングによる自己研修のプログラムなども構築したいと考えています。

来

年度開設される人間情報学部では、人の認知情報の分析など人間工学的な観点での情報分析ができる環境が整っています。こうした環境をフルに活用して、どのようにしてコンテンツを構成すれば理解しやすいか、快適なインタフェースはどのような画面がよいかなど、学生のみならず一緒に考えていきたいと思っています。